

海外夏期セミナー

カナダコース

2008.8.3～9.7

目 次

日程表	(4)
夏期セミナー参加者	(5)
カナダで出会った人々	(6)
英語授業	(7)
IT Class	(8)
企業訪問	(9)
ACTIVITY	(12)
ウエストエドモントンモール	(18)
ホームステイ	(19)
寮生活	(24)
一人一人の留学報告	(26)

日程表

8月／3日 カナダ到着 オリエンテーション	4日 Edmonton Heritage Festival	5日 英語クラス	6日 英語クラス Bay party	7日 英語クラス	8日 カナディアン ロッキー	9日 カナディアン ロッキー
10日 カナディアン ロッキー	11日 英語クラス 企業訪問	12日 West Edmonton Mall	13日 英語クラス カンパゼーション	14日 カヌー& 乗馬	15日 英語クラス カンパゼーション	16日 休日
17日 ホームステイ	18日 英語クラス	19日 英語クラス 企業訪問	20日 英語クラス カンパゼーション	21日 英語クラス	22日 英語クラス 企業訪問	23日 休日
24日 休日	25日 英語クラス ゴルフ	26日 英語クラス 企業訪問	27日 英語クラス カンパゼーション	28日 テスト カンパゼーション	29日 ITクラス 企業訪問	30日 休日
31日 休日	9月／1日	2日 ITクラス カンパゼーション	3日 ITクラス カンパゼーション	4日 ITクラス	5日 ITクラス farewell party	6日 出発
7日 帰国						

夏期セミナー参加者

稲川 伸一 岩城 堯利 大橋 佳祐

柏森 綾香 佐藤 智也 志村 航

滝沢 桃子 田巻 勝成 堂前 亜実

遠山 亜紀 中野 哲也 山口 慶美 若杉 直樹

引率教員

河原 和好 岸野 清孝

カナダで出会った人々

滝沢桃子

カナダ留学では、様々な人たちにお世話になりました。なかでも一番お世話になったのは、ドミニクです。ドミニクは、新潟国際情報大学のインストラクターのような存在で、いつも優しく紳士的な男性でした。ドミニクとはじめて出会ったのは、カナダの空港に着いたときでした。ドミニクは空港のロビーで私たちが到着するのを待っていて、ロビーに着くとすぐに「Hi!」と言って明るく迎えてくれました。寮のことや、学校のことでわからないことがあったら何でも聞いてね、と優しく言ってくれました。最初、カナダでの生活はわからないことだらけだったので、たくさん聞きました。ドミニクはどんなことでも優しく教えてくれました。休みの日になると、私たちをテーマパークなどに連れて行ってくれました。誰にでも気さくに声をかけてくれて、英語のわからない私たちのためにゆっくりと丁寧に話してくれました。なので、ドミニクの英語は一番わかりやすかったです。たまにわからなくて何度か聞き返すことがあっても、いやな顔ひとつせず話してくれました。日本に帰るときも早朝5時と早い時間にもかかわらず見送りにきてくれました。カナダでの生活の最初から最後まで本当にお世話になった人です。

次に、私たちの英語の先生だったマットを紹介します。マットは年齢不詳でしたが、性格は子供みたいでした。英語も話すのが早くて、最初は全くなんと言っているかわかりませんでした。宿題も難しくたくさん出たのですが、授業はマットが面白かったので、とても楽しかったです。いつも自転車で来ていました。外国人は時間にルーズだと聞きますが、マットはいつも5分くらい前にはついていました。1日目で私たち全員の名前を覚えてくれていて、感動しました。

パソコンの先生はマークといって、とっても優しくかったです。ホームページを作成するという授業内容だったのですが、いつも一通り説明をした後、私たちに「わかった？」と聞いてくれました。わからないところがあって呼ぶとすぐに飛んできてくれました。そして、優しく教えてくれました。

他にも、企業訪問などに連れて行ってくれた日本語で「いくよー」と言って私たちを呼ぶ明るいヘイムやロッキートリップと一緒にいったとても話すのが早いけどオシャレで可愛いブリアン、実はとても偉い方だった陽気で面白いセバスチャン、カンパセッションクラブでお世話になったスティーブン、マーク、キャビン、ウィル、エディなど、本当に様々な人々にお世話になりました。カナダに住む人々は、みんな親切でした。出会えてよかったと思います。



カナダでの英語の授業スタイルは、普段の大学での英語の授業スタイルとはまったく異なっていて、英語の授業というよりは、英会話学習に近い授業スタイルでした。

日本での英語の授業といえば、新潟国際情報大学を例にすると、1年次は「話す英語」「CALL 英語」「総合英語」と主に文法や英語の文章を学習する授業構成で、2年次になると「表現英語」「読む英語」「TOEIC 英語」と、1年次よりも1段階レベルアップした英語学習と、TOEIC のための英語学習が中心です。

つまり、日常使う英語というよりは、英語の文章を読み解く力をつけるための英語学習が大学の主な英語の授業構成だということです。

確かに、我々が在住しているのは日本だし、親戚に外国人の友達がいたり、または留学しなければならないなどといったことがなければ、日常英会話を使うことがまったくないので、日本の英語の授業では、話す英語よりも、読んだり、理解したりする英語が重視されるため、こういった授業構成になっているのではないかと思います。

それに比べて、カナダでの英語の授業では、文法もさることながら日常英会話を重視した授業構成でした。

例えば、クラス全員に英語で書かれた質問の紙を配り、その問いの解答をクラスのメンバー1人1人に英語で答えさせたり、課外学習として、大学のキャンパス内に出てみて、現地の人に英語で道案内などといった様々な質問をしてみたりする授業でした。

やはり、読み、書きを中心とした間接的な英語学習をしている日本に対して、カナダは普段の会話に不可欠な英語も習得しなければいけないという直接的な英語学習をしているので、国によって英語の学習方法はそれぞれ違ってくるのではないかと感じました。

また、カナダでネイティブな英語に触れることにより、日本で学んでいる英語との比較をすることができ、例えばRとLの発音の違い一つとっても、カナダで教わった発音の方が、より自然な発音だと感じました。

さらに日本では、普段使うことができない、自然な英会話をカナダで学習することができたことにより、英語学習の向上をすることができました。

私はこのカナダの留学により、日本の間接的な英語学習とカナダでの直接的な英語学習を両方とも学べることができ、また日本とカナダの比較、さらには自分自身の英語能力の試し、把握、向上を図ることができたのでサマーセミナーに参加して本当によかったと感じました。

Information Technology Class

IT クラスでは、主に Java を使用して、ホームページを作成する方法を、ソフトを利用して、指導してもらった。ソフトを使うものの、機能はあまり使わず、Java のプログラムで1から作り、作成をした。

最初は、Java のソフトを使用し、どのプログラムを作るとどのように作用するかを指導してもらった。例えば、文字や画像などを表示するプログラムや、それらの色やサイズなどを設定するプログラム、別のサイトに飛ぶようにするプログラム、画面分割をするプログラムや、背景を指定するプログラムなどを指導してもらった。

次に、そのホームページのアドレスについて、かぶっていないか、また、違法にならないか検査するサイトについて学んだ。アドレスについては、なるべくサイトに沿ったアドレスにした方がよい、という風に学んだ。

ある程度学んだところで、数人のグループを作り、各グループで1つのサイトを作ってみるという課題が出される。サイトのテーマは自由。一人ひとつずつサイトを作り、それをつなげて、ひとつのホームページを作成する。この課題で、IT クラスでの成績が評価される。

まず、各グループでテーマ・サイト名を決める。もちろん、テーマに沿ったサイト名を考える。次に、そのホームページのアドレスを考える。アドレスが他のサイトにかぶらないように考える。その後、レイアウトを考える。どのような背景にして、トップページをどのようにするかなどを考える。このときも、トップページに、サイト名や、サイトにふさわしい画像などを付けるなど、本格的に考えなければならない。そして、画像をクリックすると、その画像についてのサイトに行くように設定をしたり、ボタンをつくり、そのボタンから別サイトに移動させたり、文字が流れるように設定したりなどを、考えなくてはならない。そして、レイアウトが決まったら、そのように各自でひとつずつサイトを作成し、それらをリンクさせて、ひとつのホームページを作った。

教えてくれる担当の人も、現地の方なので、もちろん日本語は通じない。英語で解説するため、しっかり聞かないとわからなくなる。ホームページのテキストやレイアウトの説明を英語で行い、質問も英語で行う。担当の方は、優しく教えてくれるので、質問があるときは、どんどんしてください。

最新システム技術を学んだ企業訪問

柏森綾香

Critical Fusion という会社では、最新の Flash を使ったさまざまな技術の説明をうけることができました。

コンピュータ化が発展している現代にとって、人にとってなくてはならないモノになったコンピュータシステムですが、人にとって便利な技術をここまで作ることができるというのを目の前で見ることができて驚きました。

Critical Fusion では公共施設において人が良い環境で行動できるようなシステムづくりをしていました。

例えば、高速道路で渋滞が起きたときや事故が起こったときにすぐに感知することのできる交通渋滞技術のシステムです。また、博物館ではお客様により興味をもっていただくためにクイズ形式のシステムをつくり、説明を画面に映しだし博物館で行っている内容についてお客様がより理解することのできるシステムを説明してもらいました。高速道路でのシステムでは、いち早く情報を受け取ることができれば渋滞や事故の迅速な対処と行動がとれるようになります。博物館では、子供が勉強のために訪れた場合に楽しんで内容を習得することができるようになります。また、これからは火災が発生したときにいち早く情報を得ることのできる消防のシステムを発展させるという話も聞きました。

人のために必要で便利なシステムづくりを行っている Critical Fusion はこの先もっと活躍する企業だろうと感じました。そして、人がよりよい生活を送るためにいろいろな能力を出し合ってシステムづくりをしている魅力的な企業でした。

「CITY TVについて」

堂前亜実

ここは初めての企業訪問ということもあり、緊張していたと思います。

ドアのセキュリティの度合いも高かったと思うし、建物から威圧感を感じてしまって心の中で「うわあ、どうしよう」と何度も思っていました。

一番びっくりしたのは説明をしてくれた方の早口っぷりです。本当に何を言っていたのかさっぱり分かりませんでした。

きっと、私たちを「留学生」として見るのではなく、「ただの見学者」として見てくれていたのだらうな、と思いましたが、もう少しゆっくり話してくれても良かったと思います。なので、説明を聞いて「おお～！」と思うよりはテレビ局の中にあった機材やモニターに表示されているものを見て「おお～！」と驚いていた記憶が強いです。

そしてとてもどうでもいいことですが、ここで貰ったハッカ味のキャラメルの味が今でも忘れられません。とても強力な味でした。

企業訪問 NAIT

中野哲也

NAIT は様々な分野を幅広く学ぶことのできる教育機関であり、卒業後すぐにキャリアに直結したプログラムを提供する公共大学。この大学内にはビジネス・エンジニアリング・情報・通信テクノロジーなどのプログラムがあり、公共大学ながらも専門学校並の専門性のある学習が出来る。さまざまなプログラムの中で今回訪問したのが、エンジニアリングプログラムと情報・通信テクノロジープログラムの二種類を訪問し、3D 映像とパソコンでのプログラミングをほんの少しの時間ではあったが学んでいった。個人の感想としては大学とは思えないほどの規模の広さと学面においての充実さはかなりのものだった。パソコンなどの情報関係の勉強では世界でもトップクラスといっても過言ではないのではないだろうか。



企業訪問レッドエンジン

稲川伸一

「世界市場のリーダーになってください、そして、組織が共同する最も包括的で完全な解決法を提供して、知らせてください。」がこの会社のモットーです。レッドエンジンは勤めるものに知性を促進して、価値を高める有機的で協力的な方法を活用しています。4つの市場の中でビジネスプロセスと作業フローを支持して重要な解決法を導く会社です。レッドエンジンは 独占的ソフトウェアを認可して、さまざまな規律へのコンサルタント業務を安全な共同と情報管理環境のなかで行っています。レッドエンジンのインターネット学習プラットフォームは、ヘルスケアでトレーニングと経験に基づく学習を組織として学んでいます。レッドエンジン Health Quality Data Exchange は集められた分析と報告のための臨床上のデータを保存する安全で、プライバシー対応すること重要視しています。コンサルティングとヘルスケア組織のための標準のアプリケーション解決か OEM 対策のために私たちの1席あたりのソリューションを認可するのがレッドエンジンです。

企業訪問

～コンピュータサイエンス～

滝沢桃子

ここは、3回目の企業訪問のときに行ったところで、学校のなかにありました。学校のなかにあるなんてどんな会社なんだろうと思いましたが、パソコンのゲームの会社でした。なかは結構広く、女性の方が案内してくれました。まず、RPG ゲームのシミュレーションのようなものを見せてもらいました。最新技術という感じで日本のゲームより凄かったです。後からきた女性の方は日本語がペラペラで、どんなゲームが好きかなどいろいろ聞かれ、おもしろいゲームを紹介したりしてくれました。

次に案内された部屋では、囲碁のゲームを作成している人がいました。どこかにコマをおくと、その度勝率などのいろいろな数字が出てきたりするので驚きました。部屋には日本語で書かれた囲碁の本が何冊かありました。最後に案内された部屋には、パソコンの画面のような小さいものではなく、大きいスクリーンのようなものが3つたっていて、その中に用意されたメガネをかけてはいると、3D空間になるといったものでした。操縦席のような、実際に操縦ができるようなところがあって、レバーを動かすと画面が変わるというすごい仕組みでした。私も1回試したのですが、まるで自分が空を飛んでいるかのように感じました。実際にいろいろ体験することができ、身近なものを作成している仕事だったのでとても楽しかったです。

カンパセーションクラブについて

岩城 堯利

カンパセーションクラブは、主に午前中に終る授業の後にあるのですが、その内容は約二時間に渡り英語のみで会話しなければならないというものでした。全員を2から3グループに分け、それぞれ連日違った担当の人とさまざまな内容の会話をします。あるときは喫茶店でごく普通に会話したり、またあるときは英文の書かれたカードを配られ、それについて話したりもしました。私ははじめは何を言ったらよいものかとずいぶん悩んだことを覚えています。それこそたいした会話ができるような勉強などそれまでしてこなかったものですから。そんな状況下ではありましたが、担当の方が聞き手にとってできるだけわかりやすい口調で聞いてきてくれたので、徐々にではありますが慣れていくことができました。しばらくは一問一答のような形式ではなしていました。だんだん言葉を選べるようになり、初めはとても長く感じていた二時間も、最後のほうではさして苦にもならず、とてもいい雰囲気会話することが出来ていったような気がします。

Edmonton Heritage Festival

佐藤智也

・概要

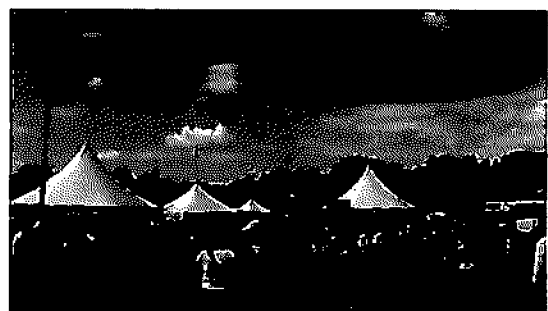
寮から10分ほど歩くと、川に面した広大な公園があります。そこで毎年7月と8月にまたがる週の週末に開催されるのが、Edmonton Heritage Festivalです。会場には、エドモントン市に存在する国別又は民族ごとのコミュニティーによって、60以上ものパビリオン（テント）が建てられています。各テントにはステージや屋台が併設されており、民族舞踊等の出し物や、世界各国の食事を楽しむことができます。

・ポイント

飲み物を用意して行きましょう。すぐに喉が渇きますし、食事売り場は常に混んでいるからです。

ここで飲食するには、チケット売り場で共通食事券を買わなければなりません。会場に着いたら、まず食事券を手に入れましょう。

会場が広いため、適当に歩いていると迷うかもしれません。経験談です。



Outdoor Activity (カヌーと乗馬とハンバーガー)

田巻勝成

カナダ時間 8 月 14 日の木曜日

この日は授業がなく課外活動が行われました。朝 8 時半からスクールバスに揺られ 1 時間、日本のバスとは違いとても揺れが激しかったため少し酔ってしまいました。友達と話していればすぐ着く距離です。そして、湖のほとりに到着です。正直ぱっと見るとあまりきれいな湖には見えませんでした。そこでカヌーをすることになります。それぞれがライフジャケットを装着しなければならないのですが、これが少しきつめでした。

「さあ、さっそくカヌーだ！」

そう思い私たちは一番はじめにカヌーに乗り込み先をいきました。

「カヌーは二回目だしもう余裕でしょ」

前に、カナディアンロッキーの旅の時に一度カヌーを体験していました。そのおかげか前ほど苦労もなくスイスイと進むことができました。奥に進むとそこはとてもきれいな川のような場所にたどり着きました。その川はとても澄んでいて日本ではあまり見ることでないきれいさと規模を兼ね備えた川でした。あまり奥に行くと帰ってこられなくなるという言葉の思い出し、沖の近場あたりで他のカヌーに乗っている人たちとじゃれあいながら戻って行きました。

特に問題はなかったです。

昼食にバイキング形式のハンバーガーを食べました。パンと肉とケチャップだけでしたが、食べ放題でとてもおいしかったです。誰かはそれを夕飯にしていた気がします。

そのあとは待ちに待った乗馬です。今日一日をこのために過ごしてきたといっても過言ではありません。とはいっても、所詮は馬に乗っているそばでトレーナーみたいな人が手綱を取りながらゆっくり進むのだろう程度に思っていたのですが、実際はまったく違いました。一人一人が馬に乗りあとは後ろからついてこいといった感じでした。あらかじめ最低限の馬の扱い方は聞いていたのですが、これがなかなかの強敵でいうことを聞いてくれませんでした。どんなに進めと合図をしても草ばかり食べます。しかし、きちんとしつけられており、無事全員がスタート地点に戻ることができました。

最後に、馬車に乗りあたりを一周しました。西部劇などに出てきそうな感じの作りで趣深いものがありました。ただ、とても暑かったのと疲れていたのも、少しダウン気味でした。それでも普段、体験できないことを体験していることと服がどんどん乾いていくことに喜びずっとハイテンションでいられた気がします。いろいろあった 1 日でしたが、普段の授業だけでは学べない体験をたくさんすることができました。

Fort Edmonton

佐藤智也

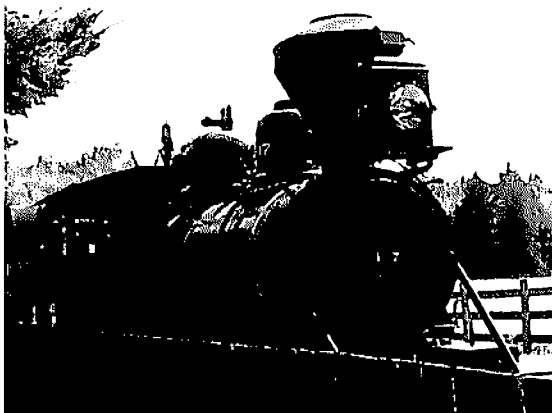
・概要

エドモントン市の生活の様子や文化を年代別に体験することができる、歴史テーマパークです。時代別にその当時の街の様子等が再現されており、実際にその建物の中に入ることができます。場所によっては、やはり当時の衣装を身に付けた職員が、かつての生活や文化についての説明をしてくれます。

・ポイント

必ず飲み物を用意して行きましょう。広いテーマパーク内を歩き回って喉が渇く事に加えて、給水できるポイントが限られているからです。自動販売機はありませんでした。

タオルも持っていく方が良いかも知れません。我々が行った時は、気温30度を超えていたそうです。



ゴルフ

大橋佳祐

カンパセーションクラブで21日に本来行われるはずだったゴルフは雨のため延期になり、25日に行われました。

このゴルフは、簡単なショートホールである18ホールを4人一組でまわるといったも

ので、特に記録をつけるといったわけではなく、ルールは 4 打以上打ってはいけないといったひとつで軽いお遊び感覚のようなものです。

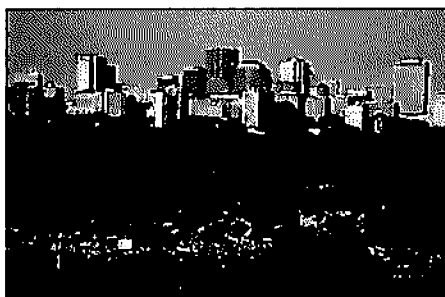
ショートホールなので、初心者の人でも簡単にでき、時間もたっぷりあるのでゆっくり楽しく出来ました。ただボールが一人一個しか配布されないのでボールをなくした場合、もうゲームを続けることができないので注意が必要です。

遊び方にはいろいろあり、中には自分の組内でルールを決め、タイムアタックや 2 人 1 組などのやっているのもおもしろいです。

私たちはタイムアタックをやりましたが 18 ホールでは足りないぐらい白熱したゴルフでした。

歓迎&お別れパーティー

若杉直樹



カナダに留学して、最初のイベントが歓迎パーティーでした。全員が、かしこまった服装をし、パーティー会場は、欧州風のホテルでした。パーティーが始まるまで、かなり時間もあったため、各自ホテルの外の広いテラスに出てみたり、席に座って友達同士で会話をしたりと、パーティー開始までのひと時をそれぞれ有意義に楽しみました。

そして、歓迎パーティーが始まり、今回の留学先であったカナダのアルバータ大学の学長の話聞いた後、料理が、前菜、メインディッシュ、デザートといったコース形式で運ばれてきました。さすが外国だけあって、料理の味は濃く、主食もパンでした。

私達日本人としたら主食はご飯が基本なので、やはり何か物足りない感じがしました。カナダでは、お米自体は食べているらしいが、日本の米ようにしっとりとしていて、なおかつふっくらしているのではなく、カナダで食されているのは日本の米と比べて細長い形をしたタイ米で、炊くのではなく、大体が焼いて食べるために、お米自体がパサパサしていて、あまりおいしくありませんでした。外国に行ってみて、改めて母国日本のお米のおいしさを実感しました。心行くまで、カナダの料理を堪能した後は、またみんななテラスに出てお酒を飲みながらカナダの夜景を堪能したり、ダンスを踊ったりしました。ここで私は、生まれて初めて赤ワインを飲んだのですが、すごく渋くてそんなに飲めませんでした。ですが、初めてのカナダでのイベントを思う存分に楽しみました。

そして、カナダでのサマーセミナー最終日のお別れパーティーですが、このパーティーでは歓迎パーティーとまた違い、バイキング形式の料理でした。

どちらかというと、歓迎パーティーのコース料理よりも種類が豊富であったために、私はこっちのバイキング料理のほうが良かったです。

そして、料理を堪能した後、学長の話聞き、一人ひとりのサマーセミナーの英語の授業の成績発表で、カナダでのサマーセミナーが締めくくられました。

最後のパーティーだけあって、最大に盛り上がりました。

以上のように、カナダでのパーティーに参加してみて、カナダ独自の文化に触れたような感じがしました。

日本には、パーティーという習慣がないので、カナダでのこの体験は、すごく貴重な体験になりました。

心に残る Lake Louise

山口慶美

ロッキー山脈は2泊3日で移動しながら観光したり買い物をしたりして過ごしました。バスで片道5時間ほどかけてロッキー山脈の方へ移動します。

1日目、1番最初に行ったのは Lake Louise でした。ここの湖は、透けているとてもきれいなエメラルドグリーンでとても印象深く、日本に帰ってから頭ずっと焼き付いています。是非もう一度訪れてみたいです。遠くの山も澄んでいて空気もとても良かったです。昼食を食べてから、Banff というお店が沢山ある場所にいきました。お土産や洋服、ブランド品、カフェなどさまざまなお店があります。中でも印象強かったのが、ぬいぐるみ店でした。ぬいぐるみ店は所々にあり、くまなどの動物のぬいぐるみが綿の抜かれた状態でラックにかかれています。購入する時に店員さんが機械から綿を入れてくれることでした。綿の量も調節できて、洋服などもたくさんある中から選んで購入できます。私と友人も、くまのぬいぐるみに綿をつめてもらいました。くまのなかでも色々な種類があり選ぶのがとても楽しかったです。夕飯は、Banff の中の Bar でお酒を飲みながら食事をしました。ホテルは2人部屋でした。この時は寮生活だったので、きれいなお風呂でお湯をためてゆっくりつかったり朝はおいしいバイキングでとても快適でした。

2日目は、お昼頃にお目当ての ICE FIELD にいきました。万年雪（氷）がある場所までは専用バスを2つ乗り継いで移動します。移動時間はバスの運転手が英語で、ロッキー山脈について案内するのですがほとんど聞き取れずとても残念だったのを覚えています。これから英語のリスニングを勉強して、案内を聞きながらもう1度バスに乗りたいです。私がここを訪れた時は幸いに天候がよく気持ちよかったです。しかしやはり山の上なので、新潟の11月位の寒さがありコートや長そでは必需品でした。バスが頂上へつくとそこには、半透明でクリアな氷が広がっていました。ところどころにはせせらぎのようなものが流れていて水もとても澄んでいてきれいでした。この水は飲めると案内されたので、ペットボトルに水を汲みました。今までにも飲んだこともない飲んだ中で1番おいしい水でした。それから Banff へ戻り、夕食はピザを食べました。

3日目は、朝食を食べてからカナダのなかでも有名なホテルへ見学に行きました。外観はホームテッドマンションのような怪しい感じだったのですが中はとても豪華でした。聞いたところこのホテルは有名方が宿泊したり、ハネムーンなどでよく使用されるホテルということでした。見学が終わって、山を登りながら身近で見られる滝を見学していると野生のリスが数多くいて可愛かったです。人間慣れしているという感じでエサをねだったりしていました。滝も、洞窟をくぐって身近に見ることができました。そこにはいくつもの虹が出ていてとても綺麗でした。

ロッキー山脈の旅では、絵にかいたようなとても綺麗で美しい自然や景色をみることでとても良かったです。この留学の中でもとても印象強い思い出になりました。時期も8月上旬はとてもいい時期で天気も気温もいいので観光にはピッタリだと思います。英語をもっと勉強して観光ガイドの案内が詳しく聞き取れるようになりたいです。そして、Lake Louise の景色をもう一度見て ICE FIELD の水は是非もう一度飲みたいです。

ウエストエドモントンモール

遠山亜紀

ウエストエドモントンモールはプールや遊園地、スケートリンクといったアミューズメントパークを始め、日用品から服、お土産などを売っているショッピングセンター、そしてレストランといった非常に多くのお店があり、1日では見て回れないほど広い場所でした。休日には多くの家族連れや友達、カップルでとても賑わっています。モールの至る所でするシナモンの香りに“外国”を感じました。

私は滞在中に3回モールに行きました。何回行っても色々な発見があり面白かったです。中でも印象的だったことは腕や足に漢字でタトゥーを掘っている人を何人も見かけたり、日本の漫画やゲームが売られていたりしたことです。日本語で「秋の新作!」「ヒット商品」などといった言葉がたくさんプリントされた鞆が売られているのを見た時はびっくりしました。しかし日本でも英語がプリントされた商品が売られているように外国でもそういった日本語の商品は普通なのだと考えたら不思議な感覚がしました。それから英語がプリントされたものを買うときは意味を考えてから買うようになりました。

モールには1\$ショップも入っているため日本と同じように日用品や雑貨を安く買う事ができます。イベントの飾りが日本よりも豊富なのはやはり文化の違いなのかなあと感じました。ちょっとしたカナダのお土産を買うには非常に便利でした。

サーティーワンのアイスのフレーバーは日本にないものもあり、オレオを使ったアイスケーキが豊富でとても美味しそうでした。時間がなく食べられなかったのが残念です。非常にカラフルなお菓子やケーキが多く、見ているだけでも楽しめ、そんなところにも外国らしさを感じました。

休日には中央の広場でアシカショーをやっていたり、特設広場でイベントをやっていたりと常に飽きることなく過ごすことができました。



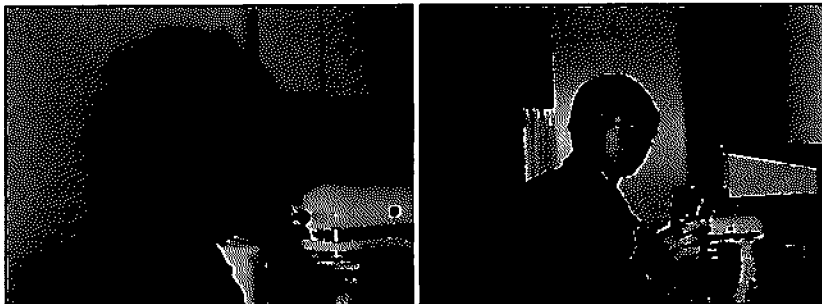
毎日がハプニングなホームステイ

中野哲也

海外研修を始めてから二週間後に三週間のホームステイが始まり、一家に一人の割合でホームステイを始めました。他の人たちは自分一人もしくは二人しかいない状況なのに、私は自分のほかにも中国人、韓国人二人、日本人学生となんと自分を含めると五人の学生が一つの家ホームステイしていることになります。しかもそのホームステイ先のホストがインド人だったことに非常に驚きました。ほかのところではイギリス人だったり、カナダ人だったり英語が主流である国の人なのに、なぜ私がホームステイした場所はみなアジア方面の人なのだろうかと思いました。

ホームステイ先から学校までの道のりはかなり遠くバスと電車を使っても一時間近くかかってしまうほどの距離で、日本人の学生が行きの際に一緒に行動してくれたのでなんとか学校に行けたのですが帰りは一人で行動しなければならないのでとても不安でその時の授業はほとんど耳に入らない状態でした。そして別れる時に渡されたバスの時刻表だけを頼りに一人で帰ることになり、初めて一人でバスに乗り毎回運転手に「ここはどのあたりですか」と質問をしてなんとか降りる予定の場所に着いたのですが、そこからの帰り道がわからなく迷子状態にないながらも歩き続け、通行人に道を聞いても「近づくな」と言われたりなんとか聞けても「わからない」と言われたりでどうしようもない状況だったのですがやっとの思いでホームステイ先に到着したのが学校を出て二時間余りかかっていた。その後日本人の人により詳しく教えてもらい、最後のほうではほとんど時間をかけずにつくようになりました。

そんなこんなである意味素晴らしい三週間を過ごしました。毎日がトラブルの連続でしたが、韓国人の人から韓国についてたくさん教えてくれたし、カナダなのに韓国料理をふるまってくれたのは本当によかったです。



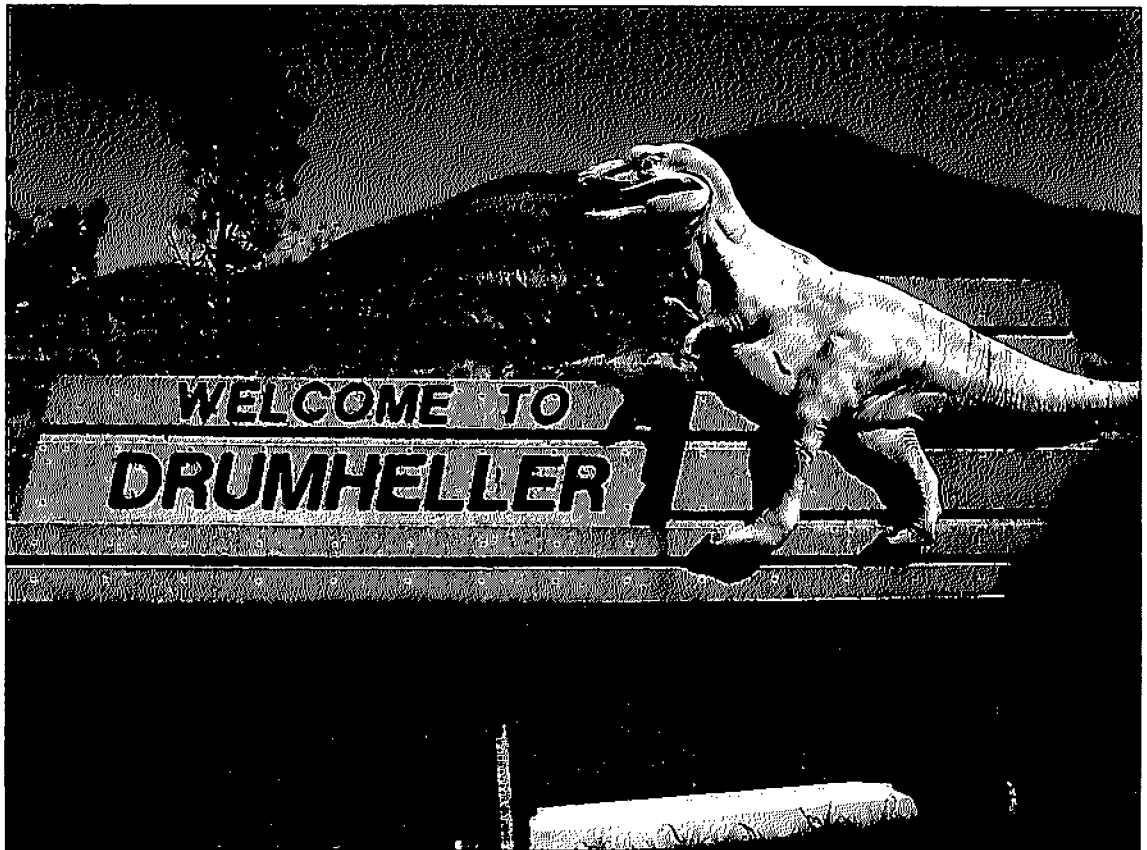
ホームステイ

田巻勝成

私が言ったホームステイ先はホストファザーとホストマザーの二人と、同じ大学の一人と一緒にホームステイになりました。とてもやさしいホストファミリーで、休日にちょっとした旅行をしたり、宿題を夜遅くまで教えてくれたり、課題で出た料理の作り方を実践してくれるなどほんとにお世話になりっぱなしでした。

特に印象深いのがドラムヘラーと呼ばれる場所に行ったことです。町全体が恐竜博物館で、実際に化石の掘れる場所や、恐竜の形をした展望台にあがったりしました。そこでランチを食べたり、すごく景色のいい場所につれてってもらったりなど今も鮮明に思い出すことが出来ます。他にも様々な体験をさせてもらいましたが、とてもすべてを文章に書くことが出来ないほどたのしませてもらいました。

また、友達の家ホームステイ先に泊まったりなどして様々な人と話をすることができました。



「ホームステイについて」

堂前亜実

私がホームステイさせて貰った所にはホストマザーしかいませんでした。そしてルームメイトとして他大学の女の子が一人。初めは人数的に考えて、パーっと盛り上がるというよりはゆったりとした時間を共有していくのかなと思っていました。

しかし、真逆の生活が待っていました。

ホストマザーはとても寂しがり屋で、その分友達が多く、家には私達3人だけということが多かったです。必ずと言っていいほど誰かがいるのです。

それは子連れの人であったり、若い夫婦であったり、過去にこの家にホームステイをした女性であったり、庭師であったり、ホストマザーの家族であったりしました。

お陰で私は半強制的に彼らと交流をせざるを得なくなり、初めはその生活に疲れを感じることがありました。しかしそれが異文化交流の経験をたくさん積みかけとなったのです。彼らの話は英語の理解力が低い私にとっても、とても興味深いものばかりでした。本当に全く意味がわからない時以外は「そんなことがあるの!？」と驚いてばかりいた気がします。

あと、彼らは多くの場合私が日本人だと分かったと接し方を合わせてくれました。

例えば挨拶。ホストマザーの家族には最初は握手を求められました。やっぱりハグをするのかなあ?と色んな意味で緊張していたので、握手だったときは安心した記憶があります。しかしそれは私がこの文化に溶け込めていないだけなのではないかと、寂しくも感じていました。そんなことを感じたまま、私は日本に帰ることになったのです。

最後の別れの挨拶のとき、ホストマザーとその家族が私にしてくれた挨拶は、ハグとキスでした。その瞬間、この人たちと別れなければならない悲しみと、自分が本当の意味で受け入れて貰えたんだ、という喜びが同時にきて、ただただ泣くことしかできませんでした。

ホームステイしたことによって、私は本当に色々な体験ができ、かけがえのないものを得ることが出来たと思います。

ホームステイについて

遠山亜紀

2週間の寮生活の後3週間のホームステイが始まりました。初めは楽しみにしていたホームステイもその日が近づくにつれ緊張や不安でいっぱいになりました。しかし私のホームステイ先は私の他にもう一人日本人の女の子を受け入れていたため心強さを感じ、また、ホストファミリーが優しかったのでそれまでの緊張は無くなり、安心に変わりました。

いざ生活を始めてみると思ったよりもスムーズにホストファミリーと溶け込むことができたのですが、困ったことや大変だったこともいくつかありました。

私は道を覚えるのが苦手なため学校から家までバスで帰ってくる際、降りるバス停を間違えることが何回もあり、最初は苦労しました。また、休日ダウントウンに友達と出かけた際もバスの時間が平日と異なるためホストファミリーが「ここから乗るのよ」といってわざわざその場所まで行って教えてくれたバス停の場所が分からなくなってしまい、何回も電話で帰り方を聞くことがありました。しかしどんな時もホストファミリーは分かりやすい英語で丁寧に教えてくれたため無事に家まで帰ることができました。

ホームステイを始めてから1週間ほどして新たに中国人の女の子も加わり、家の中はより一層にぎやかになりました。中国語を教えてもらったり、中国での生活について聞いたる時間は非常に有意義で楽しかったです。

ホストファミリーは本当の家族のように接してくれ、色々な所へ連れて行ってくれました。夕食後には宿題を見てくれたり一緒にDVDを見たり、帰る日まで充実した日を過ごすことができました。最初は不安ばかりでしたが最終日には楽しかった思い出と寂しい気持ちでいっぱいでした。

ホームステイを通じて“リアル”な英語とカナダ人のライフスタイルについて学ぶことができいい刺激を受けることができました。



ホームステイ

大橋佳祐

ホームステイはカナダの一般家庭で約 3 週間という期間を過ごし、最初は仲間と別れ一人で初めて会った家族と一緒に過ごすことに戸惑いを感じ、馴染むことが出来ませんでした。

私のホームステイファミリーは 2 人夫婦の方で、二人ともやさしい方々でそういった私の心境を理解してくれてか、積極的に話しかけてくれてか比較的早く馴染むことが出来ました。

比較的大きな家で 1 階と地下のある家で、私は地下をまるまるもらい、洗濯機も乾燥機も生活に必要なものがすべてそこに置いてあり、快適な生活でしたが、窓がないために日の光が入らないので時間間隔がわからなくなったり、バスタブが無くシャワーしかないことが不便でした。

食事では、ほとんどパンやシリアルだったのですが、日本人と察してからかお米を使った料理を作ってくれました。日本の米とは味がぜんぜん悪くあまり良い味とは言えませんでした。が久々の日本食を食べほっとしたりもしました。

途中から家に中国人の留学生が来たので、中国の文化など生活の環境を聞いたり、世間話などたくさん話をして友達になったりしてよい勉強になりました。

寮生活について

岩城堯利

当留学にあたり約五週間のスケジュールのうち最初の三週間は寮で生活していました。留学関係の学生用のこの寮はなかなか年季が入っていて、また廊下や壁に以前そこに住んでいた学生達のアートがあつたりと、こちらのテイストが色濃く残っていました。ホールにはテレビがあり、丁度オリンピックの時期でもあつたので、みんなで見たりしていたのを良く覚えています。もちろん、番組はすべて英語でしたが。共同設備はコインランドリー、簡単な調理場、トイレ兼シャワーでした。この寮生活では、とにかく食料が鍵でした。いかに食費を安く抑え、かつ腹を膨らませられるか。この点、人数で団結できればこれほど心強いものはありません。近所に安い店があると聞けばそこへ赴き、また遠方に更に安い店があるらしいときけば、喜んで電車に乗ったものです。買ってきた食材を誰かから道具を貸してもらったりしながら調理していました。ですので、とても楽しかったです

2週間の寮生活

柏森綾香

私は、カナダへ留学をして初めて寮生活というものを経験することができました。アルバータ大学に通うために学校から徒歩10分くらいの距離のリスターという寮に約2週間滞在しました。

私たちは、日本から必要最低限の食料を持って行きなるべく自炊をするよう心がけていました。寮には共同のキッチンがあつて鍋やお皿やはしなど皆が協力してかしてくれることがありました。共同の冷蔵庫、共同の洗濯機、共同のシャワーなど全てが私にとって新鮮なことだらけでした。

自分一人の生活ではないので、シャワーを使う順番をじゃんけんで決めたり洗濯機は順番を決めて使うこともあつて普段できないような経験をすることができてきました。しかし、シャワールームとトイレが一緒になっている造りになっていたのが嫌な気分になったことを今でも覚えています。また、浴槽に入れないということが苦痛でした。その時に初めて文化の違いを実感することができました。

日本にいるときには、親に甘えて洗濯やご飯作りをすることがない私ですが、カナダにきて身の回りのことは全て自分でする必要があつたので少し大人になれたような気がします。協力し合って生活し、身の回りのことは全て自分でするという経験ができた寮生活は一回り成長するきっかけになったと感じます。

貴重な寮生活

山口慶美

大学指定の寮は1人もしくは2人部屋でした。お風呂はシャワーが3つあり男女別で共同です。キッチンが階ごとに1つ設置してあります。また、1回200円で洗濯機と乾燥機も用意してあるので2人ペアくらいでお金を出し合いながら利用していました。また、1つのフロアの真ん中には大きなリビング的なものがありテレビ1台とソファが用意されています。空いている時間やみんなでワイワイしたいときなどはここに集合して時間を過ごしました。

寮近辺の状況は、大学まで徒歩20分程度で周辺は交通の便もよく、コンビニやファーストフードのお店もあるのでとても便利です。スーパーは徒歩で40分ほどかかってしまうのですが、寮生活でのご飯の買出しなどによく利用していました。また、学校帰りにも立ち寄れるジェラートがおいしいカフェなども数多くあり楽しむことができました。

寮生活の良いところは、大学の英語のクラスで出された課題などをみんなで相談しながら解くことや、朝寝坊しそうなときは起こし合うなど協力して生活できたことでした。また、他の階には他の大学の生徒や海外の留学生が生活しているので夜など行き来して交流することもできてとても楽しかったです。また、私は留学はもちろん海外で生活することが初めてだったので最初の2週間はとても安心して楽しみながら過ごすことができました。これは誰もが言っていたことですが最初の寮生活の2週間は本当にあっという間に過ぎていき充実しています。空いている時間や休みなどは、ドミニクからどこかへ連れて行ってもらったり、友人と買い物などにも行きました。カナダへ留学してからの最初の2週間はとても貴重なものだったと思います。

夏期セミナーを体験して

稲川 伸一

私は留学に行く前に、海外に行ったことがあります。旅行に行く以前は海外に行ったことのない誰もが抱く思い、「海外に行ってみたい」。行った後は、「また行ってみたい」と思っていました。夏期セミナーへ参加したい理由に英語をもっと勉強したい他に、上記の理由でもありました。

留学に行くにあたり、様々な気持ちがありました。期待・挑戦・不安・恐怖……。その中でも一番頭を悩ましたことは、文化の相違・言語でした。事実、現地に着いて挨拶されても恥ずかしさもあつたと思いますが緊張で挨拶できなかったと思います。最初の苦悩が過ぎたと思えば、さらに追い討ちをかけるように苦悩の波が押し寄せてきます。欧米食の中心は私も大好きな“肉”です。最初の食事では、あらかじめ用意されていた食事なのでおいしくいただくことができたのですが、注文するとき発音が悪いのか、声が小さいのか理由は分かりませんが相手に伝わりませんでした。たった1回の失敗でしかないのに精神状態が異常なときにはトラウマになってしまいます。今思えば普通に注文すればいいのに悪い場合のことばかりを考えてしまい、負の連鎖となってしまいます。しかし、悪いことばかりではありません。とてもユニークな英語の教師、時には不機嫌になることもあったが優しいアシスタント、新鮮な空気、見慣れない風景など、毎日新しい発見ばかりで行く前よりドキドキしていました。

カナダでは様々な体験をしました。カヌー・ゴルフなどの体を使って体験することもあれば、言語が違うだけで伝えたいこと全てが伝えられないもどかしさ・その国特有のルール（規則）といった体の内面や頭で考える体験もしました。留学に行つて半年以上経とうとしていますが今でもはっきり覚えていることは、ホームステイです。旅行や日本にいては経験できない貴重な体験です。原則として一つの家庭に1人で、私のホームステイ先はおばあちゃんが1人で暮らしているところでした。正直、私は老人が嫌いでホームステイに1人で行きたくありませんでした。夕食は時間が決まっていて毎日何時に帰れるか聞いてきました。少しでも遅れると理由を聞かれ、答えるには英語で話さなくてはいけないので面倒でした。家に帰ってもすぐ部屋に行き1人である時間が長くなり、帰宅時間ギリギリに帰ることが多くなりました。しかし、時間が経つにつれて英語にも慣れてきたころ、急に英語で話すことが楽しくなってきました。そこから、帰るのが楽しみで用が済んだらすぐに帰るようになりました。そうすると時間が経つのはあっという間で、ホームステイとカナダとの別れが近づいてきます。私はサプライズとして、出発の日に置手紙と私が仲間と撮った写真を1枚贈ろうと考えていましたが、先に渡されてしまいました。テレビのサプライズ企画で泣いているのを見て「そんなことで泣かないだろ」と思っていたのですが、実際その場面に立つとどうしようもない気持ちになります。必死に涙をこらえる自分と、素直に Thank You といえればいいのに感動のあまり言えない自分がいました。私が出発して

から見てもらおうと思っていた手紙も見つかってしまっていて、手紙の中に書いた“笑顔で見送ってください”を別れ際にしてくれてとても嬉しかったです。見送りは玄関のところまで、その後タクシーからおばあちゃんを見たら泣いていました。

終わってみたら何もしないであっという間に過ぎていった5週間でした。振り返っても覚えていることは覚えているけど、鮮明には覚えていません。しかし、1つだけ言えることは留学に行った人みんなが自分の中で何かが変わったと思います。実感ない人もいますが、友達・家族により優しくなったとか英語・他文化に興味を持ったなど、普段何気ない日常生活で些細な変化があると思います。この先、夏期セミナーに行く人に言いたいことは夏休みどうせすることなかったらお金かかるけど、留学に行ったほうが良いと思います。最初は辛いことの連続で嫌になると思うけど、最後は笑って帰って来れます。2ヶ月棒に振るぐらいなら貴重な体験をしてみてもいいかなと思います。

留学のまとめ

岩城 堯利

私は、当夏期セミナーを語学的にも、経験的にもいい内容を以って終えることができました。連日の英語の授業、午後からのカンパセーションクラブからなる充実した英語の勉強ができ、企業訪問で北欧の経済に触れられたり、様々なものを見聞きし、貴重な経験として持ち帰ることが出来たことが、私自身の最高の収穫です。

しかして、かねてより私はこのような特殊な状況に身を投じるにあたりとにかく、自ら動き吸収していくことが第一であると考えておりました。実際に行って、それを実践してみることで、さらに確信に至ったのです。例としてあげるならば、ぶっつけ本番でバスに乗ってみる、とか。まあ下調べはもちろんした上で、ですがなるべく自らを以って体験するのはです。というのも、やはり自らを通して経験したものは忘れにくいからです。もちろん失敗も数ありましたが、こちらとしてはむしろ失敗しに行ったようなものですから、それもよい思い出となりました。また積極的に情報を手に入れようと動く中でさらに英語と触れ合う場面も増えるはずです。こうしたいくつものメリットがあるので、こうした姿勢はここ日本でも続けて行きたいと思っています。

また、カナダの環境によって心身にとっても良い形で学んでいけたのも書かねばなりません。普段の生活の場が都市部でしたので、たまにそこから離れてみる機会（ロッキーツアーなど）があったのがやはり良かったです。カナダの雄大な自然は筆舌に尽くしがたいものなのですが、そうしたものを眼前にすることでとてもリラックスできたり、また興奮できたりと我々の心を一つの衝動として颯爽と席卷してくれるのです。それはロッキー山脈であったり、大氷河であったり、あるいは広大な牧草地帯など本当にカナダの様々な風景がそこへと繋がっていきました。

さて、最後になりますが当セミナーは言語学的、文化的にも良いものだったというのが私の率直な感想です。これらの一つ一つが日本では経験できないものであり、そこから学べることももちろんのことです。もしいま現在こうした留学に参加しようか迷っている方がいるとするならば、私は自信を持ってお勧めします。

留学報告

大橋佳祐

学問的な学習では、日本でやるような英語を使った机の上で黙々とする授業方針ではなく、屋外学習や、絵やカードを使いトークをするといった方針を行ったのが良かったと思います。こういった方針で普段の授業が楽しく、効率よく学習できたと感じます。

それに授業以外の普段の生活でも英語を話すほうが多いのでより実践的に学びました。他にも授業の一環でカナダの企業を訪問し、その企業の技術の説明を受けましたが当然ながらすべて英語で、企業の方が図やボディランゲージといった配慮もあってか理解しやすく、英単語も理解しやすかったです。

生活面では、最初の頃の学生寮での生活は自給自足で行い水道の水も飲めないことや蛇口のまわす方向が逆といった様々な違いや、時差ぼけなどで最初は慣れない生活のためかイライラすることが多く、慣れるまでに1週間以上もかかりました。交通面では2ドル50という格安で2時間電車やバスが乗り放題といった日本と違ったシステムがあり学校の登校に利用しました。

ホームステイ先では最初、仲間と別れ一人で初めて会った家族と一緒に過ごすことに戸惑いを感じ、馴染むことが出来ませんでした。が、やさしい方々でそういった私の心境を理解してくれてか、積極的に話しかけてくれてか比較的早く馴染むことが出来ました。

それに、途中から家に中国人の留学生が来たので、中国の文化など生活の環境を聞いたりして友達になったりしてよい勉強になりました。

天候は暑い気候から急に寒くなったりと温度差が激しく、時には雪も降ったりもしました。体調管理が大変で、天候の変化に一番悩まされました。

正直最初は慣れない国での生活や、終わることのない授業の課題などを自分の力で乗り越えていかなくてはいけないことにひどく不安を感じ、日本で味わったことのない苦労や辛さがあり何度も「もうダメ」と思ったりもしました。

ですが、こういった苦労や辛さを乗り越えた時には自分が留学をする前よりもひとまわり成長していることに気づき、留学は自分を成長するためのよいきっかけであり、自分への試練だと思います。

私はアルバータ留学で自分の知らなかった土地の文化、習慣などを実際に経験してみても自分にとってすごくプラスになりました。そしてそういった文化も言葉も違う中で同じ学科の仲間たちと過ごした思い出は忘れられないものとなります。

貴重な経験ができた夏期セミナー

柏森綾香

約5週間のカナダへの夏期セミナーを通して私は、英語の勉強だけではなくさまざまなことを学んで成長することができました。

約2週間の寮生活と3週間のホームステイという貴重な期間は、長いようでとても短かった気がします。それだけ、カナダの文化と生活に慣れるのが早かったのだと感じます。

アルバータ州立大学に通い、英語の授業を朝から昼まで毎日行いました。基礎的な授業から会話を中心とした実践的な授業を通して一日でも早くコミュニケーションをとることができるように学んでいました。また、ITクラスの授業ではグループになってホームページ作りを行いました。午後になるとカンパセーションクラブや、企業訪問などコミュニケーションの上達を図る時間やカナダの発展した企業へ見学に行ってコンピュータのシステム技術の説明を受けることができシステム学科の私にはとても勉強になることが多かったです。

Rockies Trip では、2泊3日の旅行をしました。コロンビアアイスフィールドに行ったり、カヌー体験をしたり同じカナダでもまた違った土地に訪れることができました。

寮生活では、夏期セミナーの皆が協力し合って2週間の共同生活を過ごしたことが印象に残っています。身の周りのことは全て自分でする必要があるので大変だったけれど大人になれたような気がします。

3週目からホームステイが始まり、私は学校から約1時間かかる距離の家庭に滞在させてもらいました。カナダの土地のことも分からないまま自分ひとりでバス停と駅や道を知らない人に尋ねながら行動し、見ず知らずの土地に緊張する3週目でした。しかし、慣れてくるようになり自分ひとりで学校へ通うことや道を尋ねて行動する自分がカッコ良く感じました。また、ホームステイ先の家族とも会話ができるようになってきて耳が慣れてきたことを実感しました。最初から、ホームステイ先のお母さんを「ママ」と呼び本当のお母さんのように接し、7歳の娘さんとも姉妹のように接することができました。ピクニックによく連れて行ってもらいカナダの大自然を感じる経験をたくさんさせてもらいました。野生の狼やバッファローなど日本ではなかなか見ることができない動物を至近距離で見たり、もぎたてのラズベリーやブルーベリーなどを採ってタルトを作ってもらったり初めてだらけの経験ばかりでした。本当にカナダという国は大自然で溢れている綺麗な所だと思います。

5週間の夏期セミナーが終わった頃には、もっとカナダに滞在したいという気持ちばかりでした。また、教科書を通して日本で英語を学んでいるよりも環境全てが英語である海外で生活することでよりコミュニケーション能力があがると実感しました。日本という狭い世界だけでなく海外に行くことによって視野が広がりました。

これからの方々へ

佐藤智也

・始めに

まずこの場を借りて、夏期セミナーに携わった全ての方々に御礼を申し上げます。約5週間という留学としては短い期間でしたが、内容の濃い、充実した時間を過ごすことが出来ました。本当にありがとうございました。

さて、ここからはこれから夏期セミナーに参加する予定の方や、どうか迷っておられる方に向けた情報をお送りします。参加希望者にとって不安要素と思われる事柄を採り上げ、それらについて私が感じた事等を以って、私の留学報告とします。

・English Class

本当に日常生活で「使える」英語を実際に使うことがメインであったと思います。例えば教室の外に出て、キャンパス内に居る人に道を尋ねて実際にその場所に行く、という事をしました。質問すべき事柄や会話の始め方は、事前に教えてくれるので心配ありません。

そうは言ってもこのクラスは、私にとって決して易しいものではありませんでした。しかし同時に、これまで私が経験してきた英語教育の中で、最も有意義であり、最も楽しめたものでした。自分は英語が苦手だ、と思っておられる方にこそ受けて欲しい授業です。

・寮生活

とても快適でした。時間の制約が無い（一応門限はあるらしい？）ので、自分の好きなように過ごすことが出来ます。大学まで歩いて行けるという事、ダウンタウンや West Edmonton Mall へのアクセスも良好であるという点も魅力です。これらの有難さは、ホームステイが始まった後に身に染みて分かる事と思います。（もちろん、ホームステイにも魅力はたくさんあります。）

・ホームステイ

ホームステイが始まると、公共交通機関を利用して大学まで通学しなければなりません。しかし、問題は無いでしょう。この頃にはもう既にあなたは電車やバスに乗ることに慣れているからです。

言葉の問題も心配ありません。ホストファミリーは努めて簡単な英語で話してくれる筈です。これは経験談で、もし文法等が間違っているとしても、言いたい事は大体伝わります。また、English Class で覚えた会話の切り出し方も役に立つ筈です。重要なことは、失敗を恐れず積極的に会話をしようとする姿勢です。完璧である必要はありません。

・終わりに

かく言う私も、申し込み締め切り直前まで悩んでいました。慣れない土地、それも海外での5週間にも及ぶ生活に、不安を禁じ得なかったのです。しかし、夏期セミナーの終盤に差し掛かる頃には、5週間では物足りないとすら感じるようになっていました。

まだ迷っているそのあなた、少し勇気を出して、決断してください。日本に居ては決して得られない様々な経験が、あなたを待っています。それらの経験は、あなたの人生に於ける貴重な財産となる筈です。

こんなチャンス、そうあるものではありません。この機会を是非ともあなたのものにしてください！

Canadian

志村 航

今回、留学をして、いろいろなことを学びました。

まずは、現地での語学学習です。やはり、現地では英語が公用語なので、使い慣れているせいか、とても話すスピードが速く、ちゃんと聞かないと意味がわからなくなってしまう時がありました。たまに、わからない単語や、熟語、ことわざなどがありました。これらは、どういうことか聞き直すと、噛み砕いてわかりやすく教えてくれました。また、こちら側もちちゃんと発音しなければ、相手にまったく通じないことが、よくわかりました。間違えた発音をすると、意味が通じないどころか、違う意味に取られてしまうことがありました。この留学を通して、発音の重要性、また、リスニングの重要性の高さがよくわかりました。

次に、カナダの文化です。カナダの人々はとても優しく、わからないことがあると、親切に教えてもらいました。ホームステイ先でも、親切に接待してもらい、とてもうれしかったです。また、交通についても、とにかく歩行者優先でした。車は、道路を横断しようとする歩行者を見つけると、必ず止まって、歩行者を横断させていました。他にも、エドモントンでは、地下鉄があり、大学内にも駅があり、町の中では、バスがさまざまな道を通っていて、交通の便は、新潟に比べ、とてもよいものでした。しかも、金額については、駅・バス両方共通の切符であり、時間制のものなので、乗り換え自体が簡単にできました。ただ、バスの路線の多さに混乱しましたが・・・。

また、現地の授業について、英語クラスでは、会話文の中心に、発音についても学びました。アクティビティとして、教室内での英語での会話や、教室を出てのオリエンテーションを行いました。ITクラスでは、Java を利用した、ホームページ作成を学びました。他にも、コンパセーションクラブとして、現地の方との会話を行いました。

最後に、カナダの企業についてです。今回の留学内で、カナダのさまざまな企業を見学しました。TV 局や、CG デザイナーなどいろいろなところを見学して思ったことは、設備がとてもいいと思いました。日本の企業もいいとは思いますが、すごいと思いました。小さい企業でも、パソコンなどを駆使して、CG を作っていたりしていました。また、大学内の施設に行き、ゲームや、さまざまなプログラムでいろいろなものを作成していて、本当にすごいと思いました。私たちの学校と比べると・・・・。なんとなくわかりますよね。

他にもさまざまなことがありました。大変なことや、驚いたこと、本当にいろいろなことがありました。水道水が飲めず、水を買わなくてはならないのが、1 番大変だったと思います。今回の留学を通して、さまざまな経験と知識を得たと思うので、この経験を今後にかかせられたらいいなと思いました。

留学報告

滝沢桃子

カナダへの留学は5週間という長いようであつという間の短い5週間でした。ついてから予定がびっしりで寂しがる暇もないくらい忙しかったです。まずついてすぐ次の日から、学校の近くでお祭りが開催されていたのでそこへいきました。様々な国が様々な料理などをだしているお祭りでした。ついて1日目だったので、現金がない人もいて困っていました。

そして次の日からすぐに英語の授業が始まりました。これから月曜日から金曜日まで8時～12時まで英語の授業なのかと思ったら、少し気が重くなりました。午後には、Scavenger Hunt という学校探検のようなものをしました。学校がとても広いので終わらせるのに苦労しました。その次の日の夜には歓迎パーティーが行われました。とても高そうなくらい綺麗なホテルで、男性はスーツ、女性はドレスと本格的なものでした。料理はおいしくなかったですが、夜景がとてもきれいでダンスなどもしていて、楽しかったです。やっと次の日の午後は予定がなかったので、休息をとることができました。

次の日からは、ロッキー山脈への旅です。ロッキーまでの道のりは長くバスでずっと寝ていました。ロッキートリップでは、カヌーに乗ったり、氷山のようなところに行ったり、ピザを食べたり、日本人が経営する日本料理を食べたりと、非常に貴重な体験をすることができました。

帰ってきてからはまた英語の授業が毎日始まり、午後は、カンパセーションクラブや、カンパニービジットなどのよていでびっしりでした。カンパセーションクラブでは様々な人と英語でおおよそ2時間話しをしました。カンパニービジットでは、カナダにあるいろいろな会社を訪問しました。他にもカナダ最大のショッピングモールであるウエストエドモントンモールに行ったり、馬に乗ったり、ゴルフをしたり、Fort Edmonton という歴史あるところへ行ったりと1日も無駄だった日はないほど濃い毎日を過ごしました。

5週間にわたるカナダの生活で、本当にたくさんの人々に出会い、いろんなことを知り、成長することができました。一生の思い出になったと思います。カナダに留学してよかったと心から思います。機会があればまた是非行きたいです。

カナダ留学報告

田巻勝成

5週間という長いようで短いような時間、買い物をするにもバスに乗るにも必要なことは英語でしゃべらなければならない日々でした。慣れるまでは本当に大変でした。日本の生活がいかにも楽で自分たちが恵まれているのだなと実感させられました。しかし、このような環境だからこそ体験できることはあり、得るものは多かったです。

まず、最初に印象に残っているのは世界で二番目に大きいといわれているウェスト・エドモントン・モールです。日本ではありえない大きさとショッピングモールというよりは遊園地というぐらいの大きさでした。実際に遊園地のように屋内にジェットコースターやウォータースライダーなどの設備も整っているプールが存在します。さらに、専用のホテルもありました。もちろんのこと、ショッピングモールというだけに買い物できる場所は充実していて、飲食店も多くありました。とても1日で回りきれものではないものでした。

次に世界遺産にも登録されているカナディアン・ロッキーです。3日間の旅行でバンフを中心にコロンビア・アイスフィールドやレイク・ルイーズなどを巡りました。そこで見る風景は本当に美しいもので、圧倒的なものでした。バンフでの買い物はお土産に最適で、ショッピングを楽しむことができます。日本人が多かったために買い物もしやすかったです。

最後になにより大変だったホームステイです。言語の違う人と一緒に住むなんてできるのかと寮のときからドキドキしていて、一緒に住んでからもドキドキでした。私は運がいいことに友達と一緒に家だったので一人よりは会話がしやすかったと思います。しかし、文化も言語も違う家族というのは苦労が絶えませんでした。ちょっと聞きたいことなども辞書で調べてから聞いたり、聞かれてもわからないことが多々ありました。しかし、ホームステイ先のひとはとても優しく、言っていることがわからなければ丁寧に言い直してくれるし、私が通じにくい英語を言っても必死に考えてくれて、なんとか会話になるようにしてくれました。もちろんホームステイ先によってある程度差はあると思いますが、みなこのような対応をしてくれると思います。家族と英語での会話の大変さと同時に、日本の家庭での生活がいかにも楽をさせてもらっているのかを学んだような気がします。このことが価値観の変わる最大の理由だろうと思います。カナダの家族には本当にお世話になりました。ホームステイはこのような機会でもなければいけないと思うので、参加してよかったと考えています。これが自分にとって1番いい経験になったと思います。

海外という環境は自分を少しは変えてくれたと思います。日本では体験できないことが多かったです。最初は憂鬱なときも多く、軽いホームシックになったりもしましたが、今ではまた、海外に行きたいと考えるようになりました。

留学報告

遠山亜紀

私はこのカナダ夏期セミナーが初めての海外旅行だったため行く前から不安と緊張ばかりでした。しかし実際カナダに着いてみると想像とまったく違い、行く前と帰ってきてからではカナダに対するイメージが大きく変わりました。

最も印象的だったことは親切な人が多いということです。目的地までの行き方がわからず、道で会った人に尋ねるとどの人も快く教えてくれました。私たちが日本人だとわかると「会えてよかった」と言ってくれる人もいて感動しました。バスに乗っている時もお年寄りやベビーカーを押した人、車椅子の人などが乗ってくると皆一斉に立ち上がり場所を空けてあげているのを見て、日本人はなかなか積極的に席を譲れる人が少ないのでこういうところを見習わなければいけないと感じました。

英語の授業やカンパセーションクラブはついていけるか不安だったのですが、せっかくカナダまで勉強をしに来ているのだからわからないところは聞かなければもったいないと思い、積極的に聞くように心がけました。聞く時に辞書で言い方を調べて聞いたりしましたが、そういう言い方はしないというものもあり、やはり現地でしか学べないこともあると実感しました。発音においても少し異なっていて通じない時があったのですが、きちんとした発音を教えてもらい非常に勉強になりました。

IT クラスは最初、単語が難しかったりしゃべるのが早くて聞き取れなかったりしたのですが、難しくてわからないということを伝えると分かりやすい英語でゆっくりと説明してくれ、一つ一つ理解しているか確認してくれたため授業についていくことができました。

セミナーを通じて普段できないようなことを多く経験することができ、様々なことを学びました。もちろん楽しいことばかりではありませんでした。リスニング力の弱さやボキャブラリーの弱さを痛感し、自分の言いたいことをうまく伝えられないもどかしさに時には会話をするのが嫌になったこともありました。しかし伝える努力をすれば相手も理解をしようと一生懸命聞いてくれます。時間が掛かりながらも分かり合えた時の喜びは図り知れません。そして更に英語が喋れるようになりたいと意欲がわいてきます。これからもこの経験を糧に更に向上していきたいと思います。

「留学をしてみて」

堂前亜実

留学をしてみて色々ありましたが、私の一番印象に残っていることはやはりホストマザーと、彼女の知り合いとの交流です。彼女の交友関係の広さのお陰で私は海外での経験をたくさん積むことが出来たと思っています。

本当に、家にいるときに自分の周りに英語が流れていないときはなかったんじゃないかと思えるくらい向こうの方々の話を聞きました。

日本人留学生以外の留学生とも触れ合えたこともいい経験でした。このときに、お互い何か1つでも共通の言語を知っているだけでコミュニケーションが取れるんだなあと感じました。

一番変わったことは、海外についての興味関心の度合いだと思います。今回行った北米のことだけでなく、欧米やアジア、中東などのニュースは細かくチェックするようになりました。

日本にいたままだったら、この世界を知ることが無かったので、とてももったいないことをしたまま時を過ごしていくことになったと思います。

留学をして「良かった」と思っている自分があることが何より嬉しいです。叶うのなら、また海外に行きたいと思っています。そのために今回一番欲しくて、一番足りなかった「話す力」をつけなくてはならないのですが、海外に行きたいという目標があるので頑張れる気がします。

今回の反省点は受身になりすぎてしまったことです。これは自分でも思ったし、ホストマザーやその友達にも指摘されたことなので、本当に本当に失敗したなと思いました。

「間違ったらどうしよう」、「通じなかったらどうしよう」という気持ちに負けてしまった悔しさを次に生かしていきたいと強く感じた一ヶ月とちょっとでの生活でした。

すべてが初体験の留学

中野哲也

カナダに五週間という期間で留学することは、初めての海外ということもあって長いように感じていましたが実はとても短いものだを経験して初めて気付きました。自分は英語をそこまでできる方ではないので不安で一杯の状態だったのですがなんとか会話ができるようになりました。

アルバータ大学での寮生活から海外研修は始まりました。二人一部屋で生活し、英語クラスと呼ばれる授業を毎日の午前中を使って勉強をしていき、課外授業のようなこともしていきました。通りすがりの人に「この町でのホッケーチームの名前は何か」などいろんな質問をしたりと様々な授業をしていきました。この間での一番のイベントがカナディアンロッキーに旅行です。カナディアンロッキーでの旅行は素晴らしい経験だったと思います。アイスフィールドと呼ばれる場所は一面が氷の銀世界で見たときにとても感動しました。ほかにとてもきれいな湖でカヌーを体験したりと楽しい毎日を過ごしていきました。ITクラスというパソコンを使ってホームページを作成するという授業もありました。三人一組になって意見を交換し合って、一つのテーマに沿ったホームページを五回の授業に分けて行うのですが教えてもらう時も質問する時も全て英語なので理解するのにかなり苦しみました。作っている時はとても楽しかったです。

そんなこんなで二週間を楽しんだ後に三週間のホームステイ生活が始まりました。このことは少し「ホームステイ」の報告で話した通り、かなりきつい生活でした。ホームステイの人数が五人とかなり多く、ホストはインド人で全くと言っていいほどカナダという気分をなくしてしまう感じでした。ほかに、ほかの友達にホストの手料理を毎日のようにふるまってくれていたというのに、自分のホームステイ先では手料理は一度も出ず、こちらで言う「〇信」のようなスーパーでの惣菜品が毎日出るのにすごく驚きました。そしてそのことに誰も疑問に思っていないことにも驚きました。しかしいろんな国の人と話すことが出来ると思ってもらえなかったのも、そういう点では二度と体験できないようなことでもあったと思います。

そんな毎日でしたがとても楽しく、また素晴らしいことだったと思います。こんな体験はもう二度と体験できないと思うので海外研修に参加してよかったと、今でははっきりと言えると思います。

大切な家族

山口慶美

私はカナダに留学して心の底から良い体験をしたと思っています。カナダへ行く前は本当に不安に押し殺されそうになり、行くのを断念しようかと考えたこともありました。しかし、カナダにいた1カ月という期間は日本の1日くらいの短さであつという間に過ぎていきました。カナダの人たちは私の不安を忘れさせるかのように、英語という言葉の違いでもとても優しく接してくれました。とても嬉しかったです。カナダへ行く前は、ホームシックになってすぐ帰りたくなるんだろうと予想もしていましたが、全くなりませんでした。友人と1カ月過ごして友情もとても深まりました。

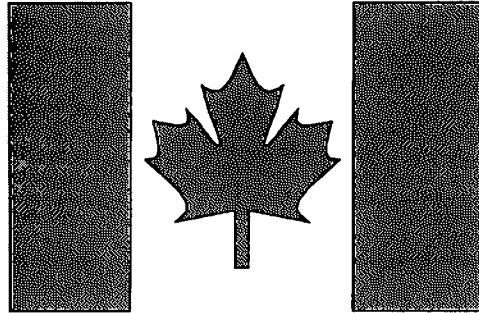
ロッキー山脈や学校の授業、現地の人たちとの交流会などさまざまなイベントや日程を過ごしていくなかで、1番心に残ったものはホームステイで過ごした時間でした。ホームステイでは私の他にも他県の大学からの留学生もいました。私の周りにはホームステイの環境が悪く毎日家に帰りたくないと言っている友人もいました。しかし、私は毎日が楽しくて家に帰りたくて仕方ありませんでした。私のホームステイ先の両親は、牧場を営んでいました。土日は牧場に出かけかまってくれることは特にありませんでしたが、土日は他県の大学の友人や国際情報の友人と待ち合わせをしたりして買い物や博物館へ行ったりなどして過ごしました。その代り、平日の夕食のときにはみんなで楽しく会話をしたりしてとても嬉しかったです。夕食も毎日採れたての新鮮な野菜や、家にあるリンゴの木のリンゴで作ったアップルパイ、りんごジュースがとても美味しかったです。何をしたとかそういうことではないけれど毎日がとても新鮮で嬉しかったです。ホームステイ先が決まり、派遣される当日は英語も慣れていないのにどんな家に配属されてちゃんと生活ができるのかとても不安でたまりませんでした。行きたくなかったのが本心でした。しかしそれはホームステイが始まって3日もたたないうちに解消されていきました。カナダを旅立つ日、私は今までにあったかなかったかくらいの悲しみに胸を押しつぶされそうになりました。別れが悲しくて涙がとらなくて泣きじゃくっていました。カナダを立つ悲しさや、日本に帰りたくないことよりも両親と別れるのが辛すぎて涙がとまりませんでした。バスが出発する何十秒前までずっと抱きしめていました。また、絶対に会いに行くことメールを交換すること、両親が日本に来た時は会いに来てもらうことたくさんたくさん約束をしました。絶対また行きます。

カナダへ行って、辛かったことや苦しかったことも多くありました。しかし、そんなことよりも行ってよかったという満足感でいっぱいです。生きている中でこんなに良い時間を過ごせたことは、一生の宝ものです。まだカナダへ行ったことがない人はカナダへ行くべきだと思います。後悔はしないと思います。

私はこんなに多くの良い思い出と経験をもらえてとても感謝しています。ありがとうございました。

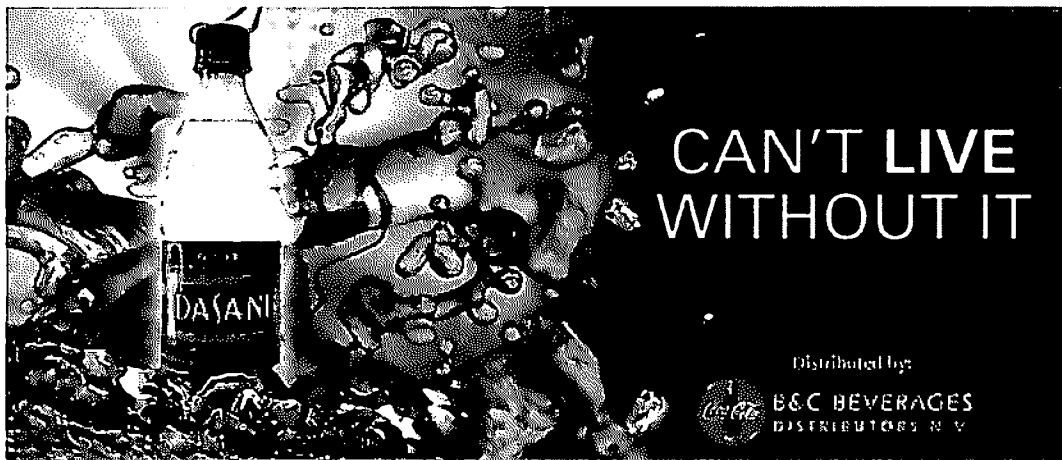
留学報告

若杉直樹



私は、今回カナダへ留学したことにより、本場のネイティブな英語だけでなく、カナダの文化や生活様式などといった、英語以外の様々なことも学びました。

まずは、カナダでの普段の生活です。カナダでは蛇口をひねると、ちゃんと水は出りますが、かなり塩素が強いらしく、飲み水として飲むことができませんでした。なので、水をスーパーなどで購入しなければいけませんでした。日本では、地震などといった災害や、もしくは、水にこだわりを持たない限り、水を購入するということは一般家庭ではあまりありませんので、水を購入したことは、かなり新鮮な感じがありました。



また、カナダでは日本に比べて、様々な物価が高く、買い物をするにしても、いろいろな店と商品を比較する必要がありました。

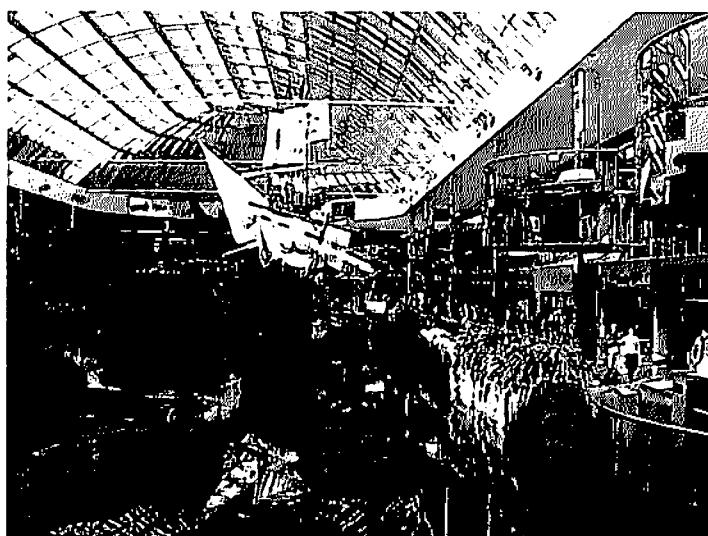
さらに、カナダの人は1週間に1日しか買い物をしないらしく、その1日に買う食品の量は、ショッピングカー2個分くらいという日本では考えられないくらいの大量購入でした。

このように日本とカナダでは普段の生活には、かなりのギャップがありました。

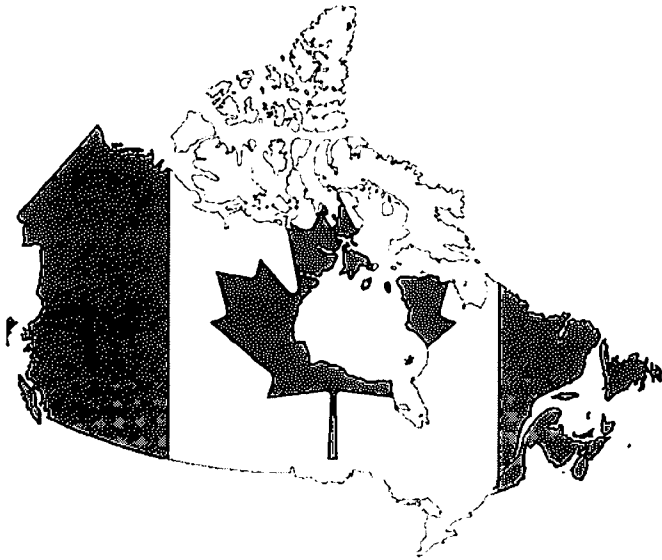


次に、カナダに行ったことにより学んだことは、家族の愛です。私は、日本でも一人暮らしなどをしたことがなく、ましてや留学なんて初めての体験でした。なので、ここでの寮生活、そしてホームステイは、私にとってすごく貴重な体験になりました。特にホームステイの方は、まだカナダに慣れきっていない私達を温かく迎えてくれたホームステイファミリーには、とても感動しました。おいしいディナーを作ってくれたり、カナダの伝統料理の作り方を教えてくれたり、さらに休日にはカナダの観光名所につれていってくれたり、私達を本当の家族同様に扱ってくれました。すごく居心地が良かったです。本当に、カナダにいる間、何不自由なく生活を支えてくれたホームステイファミリーには、とても感謝の気持ちでいっぱいになりました。





以上のように、このサマーセミナーによって得たものは、すごく大きいものになりました。しかし、日本にいて出来ないこと、カナダにいるからこそ出来ること、様々なことを学ぶことが出来て良かったです。



やはり、世界は広いと改めて、実感しました。

今後将来、また個人的に海外へ旅行することなどもあることだろうと思いますが、このカナダのサマーセミナーで培った事を役立てたりしながら、今という生活を1日1日悔い残さず、大事にすごしていきたいと思っています。

サマーセミナーに参加することができて、よかったです。